

やっと越えた90年代の記録の壁

笠松陸上競技場で開催された関東高校。春陸からは4名の選手が果敢にインターハイへチャレンジ。関東で6枚しかない総体への「超難関チケット」だ。4人各々が全ての思いを込めて望んだことだろう。結果は様々であろうが、現在の持ちうる全ての力を出し切った結果である。4人には敬意を表したい。

★春陸の長距離歴史

春高のインターハイでの長距離入賞は1955年の杉崎さん（当時2年生）が5000mで2位に入っている。

春陸中長距離というくくりでのインターハイ出場は1992年にまでさかのぼる。1分55秒51で黒川が800mで駒沢関東6位に入った。1988年に今井も800mで関東入賞している。しかし過去30年ではそれだけ。つまりは1500mSCの時代に戻ってもインターハイ出場は1970年に4分29秒で須藤純一さん（現・小春会長）までいないのだ。3000mSCに種目を絞ってみると、関東は2003年に余吾直人によって始めて達成された。

春高長距離記録的にも竹村・工藤時代に多くが作られた。

1992年の福田によって1500m、5000m、10000m、3000SCが保持されていた。20年近くに渡って、後輩たちの挑戦をその記録はことごとく跳ね除けてきた。

・・・だが今年、ついにその壁が打ち破られた。

★春陸の新たなカテゴリー

関東3000mSC 3位 9分14秒44 大久保誠吾

春陸にとって初づくしの快挙であった。初の3000mSC総体。

18年ぶり春高記録更新。

大塚・秋庭時代に春陸の新たな「色」が醸し出されたといっている。これは大久保だけの活躍ではない。突破口として「やればできるんだ！」という事に後輩たちが活気づき、新しい時代を築いてほしいと思う。

過去に、投擲王国、跳躍時代、短距離制覇と様々な時代を春高は飾ってきた。しばらくは面白いチーム展開がみられそうだ。

春陸では現在、長距離班のメンバーが一番多いのだから。

